

討論

令和2年度一般会計決算

賛成

バランスの取れた財政運営

新型コロナウイルス感染症は、市民生活に依然として様々な影響を及ぼしている。令和2年度は、主な事業として特別給付金の支給、水道料金の減免、小中学校の給食費の無償化、プレミアム付き商品券の発行、公共施設の感染予防対策の実施などの事業を展開した。

一方で、佐屋駅周辺整備や公共施設の老朽化に伴う改修など事業を進め、10年先、20年先の愛西市を見据えた事業を積極的に取り組んだことを評価する。

厳しい財政状況の中で将来世代の負担を増加させないなど、バランスの取れた財政運営ができた。

反対

感染症対策だけでは不十分

決算額は前年比35・6%の増額だ。増額の主な理由は、新型コロナウイルス感染症対策だ。

感染拡大対策として「誰でも無料で受けられるPCR検査」、クラスターが心配される市役所や学校などでの定期的な検査は実施されていない。また、経済的に厳しい家庭は、子どもに届くべきサービスが届いていない。

農村地帯では、高齢者世帯が目立ち「この大きな家と田畑はどうしたらいいのか」との悩みが多い。

教育については、小中学校施設老朽化対策事業を早く進め、子どもたちの学びの環境を整えることを求める。

議論の中から新発見

高潮ハザードマップが追加配布されます

愛知県の新しい高潮浸水想定を元に、愛西市の高潮ハザードマップを作成します。

225万4千円

Q 前回配布されたハザードマップとどう違うのか。

A 令和3年4月に洪水・地震ハザードマップを配布した。愛知県が6月11日に「高潮浸水想定区域」を指定したので、追加作成した。

Q 災害の想定は。

A 日本に上陸した過去最大の室戸台風級による伊勢湾沿岸の最大規模の高波を想定し、防波堤や河川の堤防が決壊した場合の浸水の想定をしている。

Q 今回の高潮ハザードマップでの避難者数の想定は。

A 県の浸水想定には、人数の想定がないので、市としてもない。



▲4月に配布されたハザードマップ

学校の手洗い場が一部自動水栓になります

学校のコロナ対策の充実をします。

1688万5千円

Q なぜ一部の蛇口なのか。

A 蛇口に触れる機会を可能な限り減らすために交換する。自動水栓は、出てくる水量が一定であり、たくさん水が必要な場合の対応のため、一部取り付けを進める。



▲自動水栓の蛇口

Q 設置数と費用は。

A 小学校に197カ所、中学校に110カ所を予定している。費用は、据え付け費込みで約5万円だ。